

大 分 県

森林環境税の取組み実績

平成28年度の事業概要

農林水産部 森との共生推進室

目 次

森林環境税の概要	1
森林環境税の積立・執行状況	2
平成28年度森林環境税活用事業一覧表	3

I 県民生活と自然環境を守る森林づくり

1. 荒廃人工林緊急整備事業	4
2. 急傾斜地危険地区緊急伐採事業	7
3. 荒廃竹林整備・利活用支援事業	8
4. 県営都市公園里山利活用推進事業	11
5. 魅力ある景観づくり推進事業	
①自然歩道整備事業	12
②景観伐採事業	13
6. 森林シカ被害防止対策事業	14
7. おおいた生物多様性保全事業	
①希少野生動植物保全事業	15
②奥山地域植生等調査事業	16
8. 森と海をつなぐ環境保全推進事業	17
9. 世界農業遺産関連調査事業	18
10. 豊かな水環境創出事業	20

II 森林資源と循環利用による地域活性化

1. 再造林促進事業	21
2. 県産竹材利用促進事業	23
3. 竹産業振興対策事業	25
4. CLT利活用等促進事業	26
5. おおいた型次世代住宅創造事業	27
6. 障がい者福祉施設整備事業	(繰越事業のため平成29年度に報告)
7. 林業就業準備支援事業	28

III 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組

1. 森林づくりボランティア活動促進事業	29
(森林づくり提案事業一覧表)	32
2. 森林環境教育推進事業	
① 森の先生派遣事業	34
② 名樹とのふれあい事業	35
③ 次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業	36
④ 木育活動推進事業	37
3. 森林環境学習促進事業	38
4. 未来の環境を守る人づくり事業	39
5. 観光行政事務指導費	40
6. みんなで支える森林づくり推進事業	41
(新たな育林技術等研究開発事業)	43
7. おおいたの森林づくり広報推進事業	45
8. おおいたうつくし作戦推進推進事業	46

森 林 環 境 税 の 概 要

1 森林環境税導入の目的

森林環境の保全と、森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成のための施策に必要な財源を確保するため、平成18年度から県民税の特例として森林環境税を導入した。

2 森林環境税の概要

- 期 間 税の特例期間：5年
第Ⅰ期：平成18年度～平成22年度
第Ⅱ期：平成23年度～平成27年度
第Ⅲ期：平成28年度～平成32年度
- 税 額 個人…年額 500円
法人…年額 1,000円～40,000円 （法人県民税（均等割額）の5%）
- 税 収 単年度 約3億2千万円
- 管理・運営 ・徴収した税は「森林環境保全基金」に積立て、他の事業と区別し活用
・基金の適正な運用を図るため、第三者機関「大分県森林づくり委員会」を設置し、事業の審査や成果の検証等を実施

3 森林環境税の使途

下記のテーマに沿い、荒廃した森林の整備や、再造林の推進、木材の需要拡大、県民が自ら提案し実行する森林づくりの支援、森林ボランティア活動の推進等の事業を実施

<第Ⅰ期 平成18年度～平成22年度>

テーマ：県民主導、個性豊かな取組、多くの県民が参加する仕組みづくり

- Ⅰ 県民意識の醸成
- Ⅱ 環境を守り災害を防ぐ森林づくり
- Ⅲ 持続的経営が可能な森林づくり
- Ⅳ 遊び、学ぶ森林づくり

<第Ⅱ期 平成23年度～平成27年度>

テーマ：県民生活を守り、地球環境保全につながる森林づくり

- Ⅰ 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備
- Ⅱ 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用
- Ⅲ 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

<第Ⅲ期 平成28年度～平成32年度>

テーマ：自然豊かな大分の魅力を育む持続可能な森林づくり

- Ⅰ 県民生活と自然環境を守る森林づくり
- Ⅱ 森林資源の循環利用による地域活性化
- Ⅲ 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組

森林環境税の積立・執行状況

<第Ⅰ期> (H18～H22)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H18	H19	H20	H21	H22	合計
基金積立額	200,781	295,120	309,363	306,987	302,495	1,414,746

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績						
	H18	H19	H20	H21	H22	合計	割合(%)
I 県民意識の醸成	23,264	38,986	41,034	37,477	28,075	168,836	14
II 環境を守り災害を防ぐ森林づくり	77,325	110,919	102,612	137,995	195,344	624,195	51
III 持続的経営が可能な森林づくり	39,740	69,371	78,595	78,595	87,154	353,455	29
IV 遊び学ぶ森林づくり	14,706	23,231	22,150	14,729	11,027	85,843	7
合計	155,035	242,507	244,391	268,796	321,600	1,232,329	100

<第Ⅱ期> (H23～H27)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H23	H24	H25	H26	H27	合計
基金積立額	304,011	305,745	307,590	306,164	307,609	1,531,119

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績						
	H23	H24	H25	H26	H27	合計	割合(%)
I 災害に強く生物多様性に配慮した森林の整備	165,192	160,790	133,267	151,271	151,515	762,035	46.6
II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用	151,090	105,251	142,308	93,772	88,837	581,258	35.6
III 県民参加の輪を広げ次世代へつなぐ取組	46,050	45,447	56,115	61,921	80,986	290,519	17.8
合計	362,332	311,488	331,690	306,964	321,338	1,633,812	100

<第Ⅲ期> (H28～H32)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H28	H29	H30	H31	H32	合計
基金積立額	315,240	—	—	—	—	315,240

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績						
	H28	H29	H30	H31	H32	合計	割合(%)
I 県民生活と自然環境を守る森林づくり	147,051	—	—	—	—	147,051	51.4
II 森林資源の循環利用による地域活性化	87,943	—	—	—	—	87,943	30.7
III 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組	51,105	—	—	—	—	51,105	17.9
合計	286,099	0	0	0	0	286,099	100

※基金積立額は、税収から市町村の徴収に要する経費を引いたもの

平成28年度 森林環境税活用事業一覧表

(単位:千円)

	施策区分	事業名	事業費	担当課室
Ⅰ 県民生活と自然環境を守る森林づくり	1 荒廃森林の整備	1 荒廃人工林緊急整備事業	21,443	森林整備室
		①流木被害森林緊急整備事業(H25～)	19,015	
		②間伐放置林等緊急整備事業(H18～)	467	
		③再造林放棄地緊急整備事業(H18～)	1,961	
	2 里山林の保全と利活用	2 急傾斜地崩壊危険区域緊急伐採事業(H27～)	9,000	砂防課
		3 荒廃竹林整備・利活用支援事業(H22～)	15,697	森との共生推進室、林産振興室
		4 県営都市公園里山利活用推進事業(H26～)	1,745	公園・生活排水課
		5 魅力ある景観づくり推進事業		
		九州遊歩道自然整備事業(H27～28)	10,000	自然保護推進室
		景観伐採事業(H25～)	10,239	都市・まちづくり推進課
	3 シカ被害対策の推進	6 森林シカ被害防止対策事業(H20～)	63,928	森との共生推進室
		7 おおいた生物多様性保全・普及啓発事業(H22～)	2,200	自然保護推進室
		希少野生動植物保全事業(H24～)		
		奥山地域植生等調査事業(H22～)		
	4 森・川・海をつなぐ環境の整備	8 森と海をつなぐ環境保全推進事業(H18～)	1,740	廃棄物対策課
		9 世界農業遺産関連調査事業(H26～)	3,028	農林水産企画課
		10 豊かな水環境創出事業(H26～)	8,031	環境保全課
			147,051	計
Ⅱ 森に林よ資する源地の域循環性利活用	1 健全な人工林資源の拡大	1 再造林促進事業(H22～)	70,200	森林整備室
	2 森林資源の需要拡大	2 県産竹材利用促進事業(H21～)	3,936	工業振興課
		3 竹産業等振興対策事業(H24～)	323	林産振興室
		4 CLT利活用等促進事業(H26～)	1,521	林産振興室
		5 おおいた型次世代住宅創造事業(H28～)	1,440	林産振興室
		6 障がい者福祉施設整備事業(H28～)	8,870	障害福祉課
	3 林業の担い手確保・育成	7 林業就業準備支援事業(H28～)	1,653	林務管理課
			87,943	計
Ⅲ 森森林につぐくれ親をし支み、える取組	1 森林ボランティア活動の促進	1 森林づくりボランティア活動促進事業	20,940	森との共生推進室
		①森林づくりボランティア支援センター事業(H18～)	3,512	
		②森林ボランティア活動支援事業(H18～)	302	
		③森林ボランティア技術向上事業(H18～)	963	
		④企業参画の森林づくり推進事業(H19～)	541	
		⑤森林づくり提案事業(H18～)	15,622	
	2 森林環境教育・木育の推進	2 森林環境教育・木育促進事業	8,239	森との共生推進室
		①森の先生派遣事業(H19～)	4,739	
		②名樹とのふれあい事業(H25～)	1,952	
		③次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業(H24～)	759	
		④おおいた木育活動推進事業(H26～)	789	
		3 森林環境学習促進事業(H18～)	6,413	社会教育課
		4 未来の環境を守る人づくり事業(H28～)	4,175	うつくし作戦推進課
		5 観光行政事務指導費(H26～)	832	観光・地域振興課
	3 森林整備への理解と参加を上げる活動	6 みんなで支える森林づくり推進事業(H18～)	4,783	森との共生推進室
		7 おおいたの森林づくり広報推進事業(H18～)	1,300	森との共生推進室
		8 おおいたうつくし作戦推進事業(H28～)	4,423	うつくし作戦推進課
			51,105	計
合計			286,099	

I-1 荒廃人工林緊急整備事業

【森林整備室】

1 実施主体

5 森林組合、1 市町

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

平成24年7月の九州北部豪雨災害では、河岸の侵食により、河川沿いの手入れ不足の人工林の木が流木となり、下流域に被害を及ぼした。

また、尾根部や急傾斜地等の木材生産に適さない人工林では、長年間伐が実施されない「間伐放置林」や皆伐後に再造林されずにそのまま放置される「再造林放棄地」が発生し、森林の持つ公益的機能が低下している。

(2) 目的

河川沿いの流木発生の危険性が高い森林や、間伐放置林及び再造林放棄地等の荒廃人工林を対象に森林整備を行い、山地の崩壊防止等の公益的機能が発揮できる森林に誘導する。

(3) 事業内容

① 流木被害対策事業

河川沿いの流木発生の危険性の高い森林を対象とした更新伐・林内整備による自然植生の回復。針広混交林化。

② 間伐放置林等緊急整備事業

災害の発生が懸念される間伐放置林等の強度間伐による針広混交林化等

③ 再造林放棄地緊急整備事業

災害の発生が懸念される再造林放棄地の植栽・下刈りによる自然植生の回復

3 成果

①流木被害対策事業

伐採率40%以上の更新伐と林内整備を行うことにより、自然植生の回復・針広混交林化が促進された。

〈更新伐〉

年度		H25	H26	H27	H28
実績		57ha	43ha	42ha	21ha

②間伐放置林等緊急整備事業

40%の間伐により、早期に自然植生の侵入により針広混交林化を促進し、表土の流出を抑えることで、公益的機能を高めることができた。

〈間伐〉

年度	H24	H25	H26	H27	H28
実績	145ha	13ha	16ha	1ha	2.5ha

③再造林放棄地緊急整備事業

広葉樹の植栽及び下刈を行うことにより、災害に強い森林の造成を行った。

〈植栽〉

年度	H24	H25	H26	H27	H28
実績	3ha	3ha	3ha	0	1.6ha

〈下刈〉

年度	H24	H25	H26	H27	H28
実績	47ha	34ha	20ha	19ha	15ha

4 今後の課題と取組

間伐放置林や再造林放棄地を解消する取組に加え、流木被害が発生する恐れのある河川沿いの人工林を整備し、自然植生の回復及び針広混交林化を図り、災害に強い森林づくりをさらに推進する。

5 実施状況写真

①流木被害森林緊急整備事業



事業実施前



事業実施後

②間伐放置林等緊急整備事業



間伐実施前



間伐実施後

③再造林放棄地緊急整備事業



再造林放棄地



植付 5 年後

I-2 急傾斜地崩壊危険区域緊急伐採事業

【砂防課】

1 実施主体

大分県（土木事務所）

2 実施事業の概要

（1）現状と課題

土砂災害危険箇所のおおくは山林であるが、近年の急激な過疎・高齢化、木材価格の低迷等により間伐等の手入れが行き届かず、土砂災害防止機能等の公益的機能が低下している。特に、人家裏など生活環境に近接する放置森林は、台風等の暴風や豪雨による倒木やがけ崩れが、住民の生命・財産に影響を及ぼす危険性が高い。

（2）目的

土砂災害危険箇所のうち急傾斜地崩壊危険区域に指定された箇所において、雑木等を伐採することにより、倒木被害やがけ崩れを未然に防止する。

（3）事業内容

急傾斜地崩壊危険区域内で、倒木被害やがけ崩れを招く恐れがある雑木等の伐採、運搬、処分を行う。

3 成果

生活環境に近接する放置森林の雑木等の伐採により、台風等による倒木やがけ崩れによる住民への被害を未然に防止することができた。

平成28年度伐採箇所	豊後高田市見目地区 ほか21地区
------------	------------------

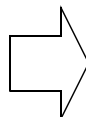
4 今後の課題と取組

今後も引き続き本事業を実施することにより、急傾斜地崩壊危険区域における倒木やがけ崩れの危険性の解消に努める。

5 実施状況写真



（伐採前）



（伐採後）

I-3 荒廃竹林整備・利活用推進事業

【森との共生推進、林産振興室】

1 実施主体 市町村

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

竹材、タケノコ需要量は外国産や代替品等の台頭により減少し、放置竹林が増加している。また、放置竹林は周辺に面積を拡大し生活環境の悪化、生態系の単純化、土砂崩壊防止機能の低下などを招いている。

(2) 目的

- ① 県土の保全と良好な景観を確保するため、主要観光地周辺や幹線道路沿線及び集落周辺の鳥獣害対策が必要な箇所における荒廃竹林の伐竹整備、広葉樹林への転換等を推進する。
- ② 竹材、タケノコ生産地として持続的管理が見込める荒廃竹林の再生を推進する。

(3) 事業内容

① 広葉樹林化

荒廃竹林を広葉樹林に転換するために必要な伐竹整備、広葉樹植栽、再生竹除去等を実施。

② 大分空港道路竹林整備

大分空港道路沿線の荒廃竹林について、景観改善の目的で伐竹、広葉樹林の植栽を実施。

③ 優良竹林化

竹材、タケノコ生産として活用するため荒廃竹林の伐竹整備及び作業路の開設を実施。

3 成果

荒廃竹林を整備することで、景観の改善が図られた。また、タケノコ・竹材生産等の利活用を促進し、持続管理を図るための竹林整備を実施できた。

① 広葉樹林化

(ha)

市町村	伐竹整備	再生竹除去
竹田市	0.42	1.08
宇佐市	1.55	0.2
玖珠町	0.21	0.28
由布市		0.8
計	2.18	3.02

② 大分空港道路竹林整備

(ha)

	実施主体	伐竹整備	再生竹除去
民有地	杵築市	0	0.74
	国東市	0	0.14
県有地	大分県	0	0
計		0	0.88

③優良竹林化

	管理方法 (ha)		計	簡易作業路開設 (m)
	タケノコ生産	竹材生産		
別府市	0.12		0.12	
杵築市	1.27		1.27	100
国東市	0.52		0.52	
玖珠町	0.71		0.71	
日田市	1.05		1.05	200
臼杵市	2.48		2.48	
豊後大野市	0.30	1.34	1.64	
宇佐市	0.14	3.29	3.43	100
竹田市	0.80		0.80	588
計	7.39	4.63	12.02	988

4 今後の課題と取組

これまでの取組に加え、引き続き、広葉樹林化へ転換、タケノコ・竹材生産への利活用を推進し、荒廃竹林の再生を推進する。

5 実施状況写真

①広葉樹林化

(伐竹整備、植栽)



【実施前】



【実施後】

(再生竹除去)



【実施前】



【実施後】

②優良竹林化



【実施前】



【実施後】



【簡易作業路の開設状況】

I - 4 県営都市公園里山利活用推進事業

【公園・生活排水課】

1 実施主体

造園修景・環境カウンセラー協会大分共同体

（「一般財団法人 日本造園修景協会大分県支部」及び「特定非営利法人 大分環境カウンセラー協会」の2団体からなる共同体）

2 実施事業の概要

（1）現状と課題

県営都市公園である大分スポーツ公園には豊かな里山が残されているが、県民に利活用されていない。

（2）目的

県営都市公園の里山を活用し、県民参加の自然体験や環境学習等の機会を設け、県民に里山の再生の推進と自然環境保全への意識を醸成する。

（3）事業内容

大分スポーツ公園の里山を開催場所として、きめ細やかな対応や自由な発想を持つNPO及び各種団体に企画・運営を委託して事業を実施する。

3 成果

年 度	公 園 名	開催数	参加者数計(目標数)	申込者数計
H 2 8	大分スポーツ公園	7 回	401 人 (400 人)	506 人

参加人数の目標を達成するとともに、実施後のアンケート結果では自然とのふれあいや保全活動に積極的な意見・感想が多く寄せられており、参加者への満足度は非常に高かったことが分かった。

4 今後の課題と取組

事業効果を高めるため、参加者の層を広げ、よりバリエーション豊かで魅力ある活動を実施する工夫が必要となる。

5 実施状況写真

カップガーデン（植樹体験）



きのこ（椎茸）の森づくり



自然観察会



里山に住む生物の学習会



巣箱づくり



土壌昆虫探索実習



I - 5 - ① 魅力ある景観づくり推進事業 (自然歩道整備事業)

【自然保護推進室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年、中高年世代を中心として登山やオルレ・ロングトレイル愛好者が増加しており、大分の自然観光資源を満喫できる長距離自然歩道等に対するニーズが高まっている。

一方、整備から相当年数が経過し、歩道の荒廃、施設の老朽化が進んでおり、その魅力を十分に生かし切れていない状況である。

(2) 目的

九州自然歩道のうち、特に魅力の高い8コース及びくじゅう連山登山道など、利用者が多く見込まれるルートを重点的に整備することで、県民が、県内の自然により一層親しみ、その魅力を満喫する機会を提供するとともに、県外からも利用者呼び込むことで観光振興へ寄与する。

(3) 事業内容

九州自然歩道のうち深耶馬・南耶馬コース、万年山縦走コース、青の洞門・羅漢寺コースの歩道、標識等の整備を行った。

3 成果

老朽化した施設の改修、登山道の整備を行ったことにより、登山者の安全性を確保するとともに、利用環境の改善が図られた。

4 今後の課題と取組

九州自然歩道等の安全性や利便性を向上させるため、既存施設を保全するとともに、腐食や劣化が進行している施設の補強や改修等を適宜行う。

5 実施状況写真

九州自然歩道 東屋改修



九州自然歩道 標識改修



I-5-② 魅力ある景観づくり推進事業(景観伐採事業)

【都市・まちづくり推進課】

1 実施主体

中津市、佐伯市、豊後高田市、宇佐市、国東市、玖珠町

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県内には、豊かな自然環境から創出された景観資源が多数あり、視点場の整備がなされてきた。一方、管理不足等により、その景観が維持できなくなっている。

(2) 目的

展望所等の視点場が整備された箇所において、眺望を阻害している樹木等を伐採することにより、景観を再生する。

(3) 事業内容

視点場からの眺望を阻害している樹木等の伐採を行う市町村へ補助を行う。

実施主体	伐採箇所	補助率
市町村	鶴御崎パノラマ展望台（佐伯市） 金色溪谷（中津市）等	1/2 以内

3 成果

- ・展望所等の眺望が当時の状態に再生され、観光客の増加につながった。
- ・景観再生をきっかけとしたイベントの開催、地元住民による事業後の管理等、地域で景観資源を活用・維持する取り組みが生まれた。

4 今後の課題と取組

景観の支障となる樹木のある土地が民有地の場合等、協力を得られないケースがあり、伐採箇所の成功事例等を活用し、景観保全の重要性について理解を求めていく。

5 実施状況写真

< 金色溪谷・展望スポット（中津市） >



伐採前



伐採後

I - 6 森林シカ被害防止対策事業

【森との共生推進室】

1 実施主体 市町村等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

ニホンジカによる農林業被害は県内で約 6,300 万円に上り、減少傾向にあるものの、依然として深刻な被害が懸念される。捕獲により生息頭数が減少している地域もあるが、未だに高密度地域も多いことから、稀少植物の食害等の生態系への影響が危惧される。

(2) 目的

シカによる森林生態系被害が県内各地で発生しており、森林の有する公益的機能の低下が危惧されている。このため、防護資材を設置し、林木への被害を防止する。また、シカの捕獲報償金事業により捕獲の強化を行いシカの生息頭数を適正な頭数まで減少させ、森林の有する公益的機能の維持増進を図る。

(3) 事業内容

種 類	事業量
防護資材の設置	2,200m
シカ捕獲報償金事業	33,446頭

3 成果

防護資材等の設置により林木およびクヌギ萌芽の被害防止が図れた。また、捕獲報償金によってシカの捕獲圧が強化され、森林被害対策を推進することができた。

4 今後の課題と取組

(1) 課題

依然として県内のシカの生息密度は適正密度より高い状況にあり、さらなる捕獲の推進による生息頭数の低減が必要である。

(2) 取組

林木やしいたけ原木伐採後のクヌギ萌芽へのシカ被害が発生していることから、引き続き防護柵の設置により被害を防止する。併せて、シカの生息頭数を減少させるため、捕獲報償金による捕獲強化に継続して取り組む。

5 実施状況写真



図－1 簡易ネットの設置例



図－2 餌に誘引されたシカ

I-7-① おおいた生物多様性保全・普及啓発事業 (希少野生動植物保全事業)

【自然保護推進室】

1 実施主体

由布自然とふれあう友の会、九重・飯田高原観光協会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

希少野生動植物の保全・保護活動は、各地域のNPO等によりボランティアで行われているが、資金や人手不足のために必ずしも意図するとおりの活動ができず、行政に対する支援の要望が強い。

(2) 目的

希少野生動植物の保護措置を行う団体の活動を支援することにより、NPO・地域住民・行政が協働して行う保護活動が地域に根付き、継続・拡大していくことを目的とする。

(3) 事業内容

- ①ヒメユリの保護活動（由布自然とふれあう友の会）
- ②ミヤマキリシマの保護活動（九重・飯田高原観光協会）

3 成果

- (1) ヒメユリの保護を図るため、生育地の見回りや、猪防護柵の設置、自然環境の普及啓発を行った。
- (2) ミヤマキリシマの保護を図るため、生育を阻害する被圧植物（ノリウツギ、アセビ等）の除伐、保護のための登山道整備、生育地への不要な侵入を防ぐためのロープ設置などを行った。

4 今後の課題と取組

事業実施団体をはじめ、関係団体等と連携しながら、希少野生動植物保護活動の拡大を図る。

5 実施状況写真

ヒメユリ 猪食害防護柵の設置



ミヤマキリシマ 被圧植物の除伐



I-7-② おおいた生物多様性保全・普及啓発事業 (奥山地域植生等調査事業)

【自然保護推進室】

1 実施主体

大分県（大分県植物研究会に委託）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

生物多様性の確保など生態系の中で重要な役割を果たしてきた野生鳥獣の一部が減少する一方で、ニホンジカなどによる農林業被害が発生しており、生物多様性や希少植物への影響が懸念されている。

(2) 目的

専門家による知見が不足する奥山地域において、ニホンジカによる植生の食害状況等を調査し、希少植物等の保全策を検討する。

(3) 事業内容

植生等調査、シカ防護柵実証試験、報告書作成

3 成果

平成28年度は昨年度同様祖母傾山系地域から日豊海岸の間にある地域において、ニホンジカの食害状況を含む植生の現況を調査し、食害の程度や植生変化の確認を行った。

また、過去に調査した祖母傾国定公園及び耶馬日田英彦山国定公園内に試験的に設置したシカ防護柵内のモニタリングを通じて、ニホンジカによる食害や植生に与える影響を検証した。

4 今後の課題と取組

引き続き食害の影響とその対策を検討するために、現に食害の見られる区域におけるシカ防護柵設置後のモニタリングを実施する。（委託事業としては終了し、委託団体が独自で継続調査を行う。）

5 実施状況写真

シカに食べられたネザサ草地



シカ食害のモニタリング調査



I-8 森と海をつなぐ環境保全推進事業

【廃棄物対策課】

1 実施主体 地区自治会、NPO 等の団体

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

海岸漂着流木等は、下流域住民の生活や経済活動の障害である。しかし、回収・切断や処理施設への搬送にかかる労働力と経費の負担が大きい。

(2) 目的

漂着流木等の処理に必要な費用を助成し、地区自治会やNPO等の団体による海岸の環境保全活動を推進する。

(3) 事業内容

団体名	実施日	場所	参加人数	処理量
NPO 法人国東市手と手とまちづくりたい	平成 28 年 6 月 1 日～ 平成 28 年 9 月 30 日	国東市内海岸	500 人	約 20 m ³
天津地域づくり協議会	平成 28 年 6 月 1 日～ 平成 28 年 9 月 25 日	宮熊・布津部海岸（宇佐市）	80 人	約 30 m ³
NPO 法人水辺に遊ぶ会	平成 28 年 6 月 9 日～ 平成 29 年 3 月 5 日	大新田海岸、三百間海岸、東浜海岸（中津市）	871 人	約 14 m ³
クリーンアップ大分	平成 28 年 7 月 3 日	奈多海岸（杵築市）	315 人	約 186kg
地縁団体梶ヶ浜区	平成 28 年 7 月 14 日	梶ヶ浜海岸（杵築市）	160 人	約 20 m ³
大分県漁業組合臼杵地区	平成 28 年 7 月 18 日	佐志生～泊ヶ内の 18 地区（臼杵市）	480 人	約 54 m ³
津久見市四浦四清会	平成 28 年 8 月 25 日	四浦仁宅海岸（津久見市）	20 人	約 2 m ³
長洲アーバンデザイン会議	平成 28 年 10 月 20 日～ 平成 28 年 10 月 21 日、 平成 28 年 12 月 6 日	長洲海岸（宇佐市）	120 人	約 10 m ³
杵築市まちピカ運動推進委員会	平成 28 年 10 月 29 日	守江港海岸（杵築市）	200 人	約 10 m ³
計 9 団体			2,936 人	

3 成果

身近な海岸を美しくするとともに、参加者の森と海に対する環境保全意識やゴミ問題に対する関心を醸成することができた。

4 今後の課題と取組

昨年度に比べて実施団体数が増加した。今後も事業のPRを強化し、実施団体・参加人数の増加を図る。

5 実施状況写真



I - 9 世界農業遺産関連調査事業 (森と海のつながりの研究)

【地域農業振興課】

1 実施主体 大分県（北海道大学へ一部委託）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

国東半島・宇佐地域では、世界農業遺産登録を契機として、森林の有する多面的機能が見直され、森林保全に向けたさらなる取り組みが求められている。

森林保全の取り組みについては、宮城県気仙沼で活動するNPO法人「森は海の恋人」が先進事例として有名であり、森林域と海域のつながりを意識した取り組みが社会的にも高い関心を集めているが、森林域が海域に及ぼす影響を科学的に調査した研究事例はない。

(2) 目的

「森と海の健全なつながり」とはどういうものなのか、その構造を科学的に解明し、NPO 法人「森は海の恋人」のような地域一体となった取り組みを推進する。

(3) 事業内容

国東半島・宇佐地域の特徴であるクスギ林とため池に着目し、上流域にそれが多い河川（桂川）と少ない河川（伊呂波川）を調査することで、森林域や里域が海域の環境に及ぼす影響を明らかにし、森から海までのつながりの機構を解明する。

(4) 前年の成果

桂川と伊呂波川では、流域の土地利用形態の違いを反映して水質が異なること、出水時には水質と量ともに変化し河川から海域への各物質のフラックスが大きく変動すること等を示した。

3 成果

流域の環境の違いが河口域の水質に及ぼす影響およびニホンウナギの生物生産に与える影響を解明した。

(1) 森林が出水時にDINを豊富に供給

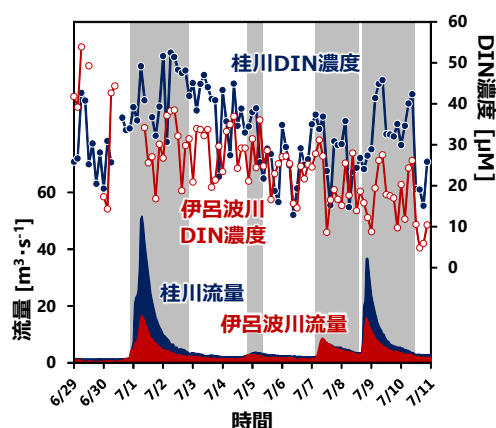


表1 出水時のDIN濃度

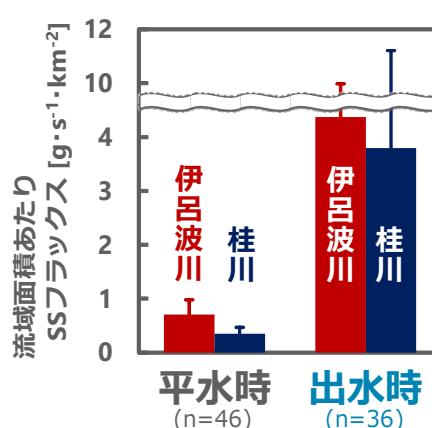


表2 SS流出量

- ・降雨に対応して流量が短期的に変動
- ・出水時にDIN濃度が高い
- ・DIN濃度は桂川が伊呂波川より高い。これは森林率の違いが河川間の差に影響していると推測される。

(2) 水田は季節によってDIN動態に異なる影響

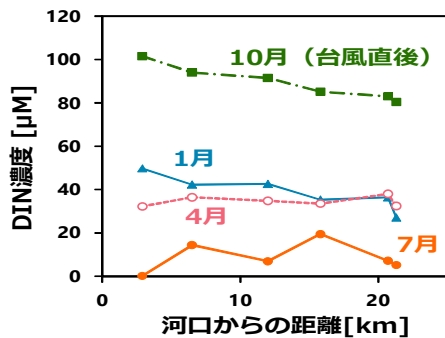


表3 河川水中のDIN濃度（桂川）

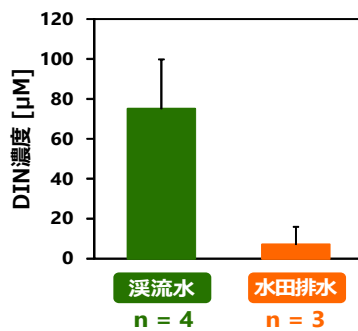


表4 DIN濃度

- ・耕作期（7月）にDIN濃度が低下する。
- ・水田排水より渓流水のほうがDIN濃度が高い傾向にある。

(3) 流域の土地利用構造は河口域のDIN動態に影響

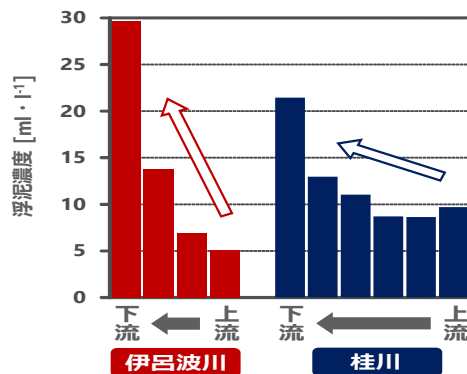


表5 河川水中の浮泥濃度の空間変化

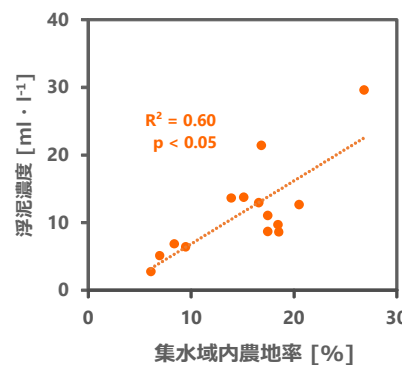


表6 集水域内農地率と浮泥濃度の関係

- ・伊呂波川では中流下流域において浮泥濃度が急激に上昇しているのに対し、桂川では比較的ゆるやかに上昇している。
- ・集水域内の土地利用と浮泥濃度が対応関係にある。

(4) ニホンウナギの生物生産に与える影響

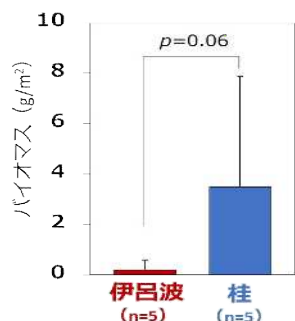


表7 ウナギのバイオマスの河川間比較

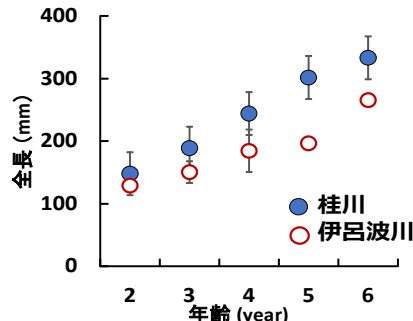


表8 ニホンウナギの全長・年齢

- ・2河川間で群集構造に違いはみられないがバイオマスは桂川で高い。
- ・底生微細藻類を基盤とした食物網の存在がわかった。
- ・桂川は餌生物のバイオマスが高く、早く魚食へ移行するためうなぎの成長もよい

4 今後の課題と取組

大学では、国の事業等を活用して国東半島・宇佐地域における水産生物の生産構造の調査を継続していく予定。

5 実施状況写真

水質調査



河川でのウナギ石倉調査



河川での生物調査



I-10 豊かな水環境創出事業

【環境保全課】

1 実施主体

4つのモデル河川で水環境保全活動を行うNPO、自治会等
(※モデル河川：筑後川、大分川、大野川、犬丸川)

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年、河川の環境基準は達成しているが、水質データと県民の意識に乖離がある。また、豊かな水を育む森林の保全活動や河川や海の美化・清掃活動等が特定の住民や地域に限定され、広がりが不十分である。

(2) 目的

モデル河川の流域住民が主体となる流域会議で、それぞれの流域の課題に応じた水環境保全活動を展開し、豊かな水環境の創出を図る。

(3) 事業内容

- ①モデル河川の流域住民が行う水環境保全活動の支援。
- ②山（森）・川・海の保全活動を支援する「つながる！豊かな水キャンペーン」の実施
- ③3年間の各河川の取組を発表する「豊かな水環境フォーラム」の開催

3 成果

- ①学校教育と連携した水環境保全活動の取組が増加した。
- ②山（森）・川・海のフィールドにおける保全活動への参加者が増加した。
- ③公開フォーラムの開催や報告書を作成により、水環境保全活動の認知度の向上を図った。

4 今後の課題と取組

4河川で実施されてきた流域会議の取組を地域で定着、発展させるため、地域内での積極的な広報が必要である。併せて、森と川と海の水循環の考え方を啓発し、森づくり、河川の保全、海岸清掃活動と、各フィールドが連携した保全活動を推進する取組が必要である。

5 実施状況写真



つながる！豊かな水キャンペーン



小学校を対象とした源流域での体験学習会

Ⅱ－１ 再造林促進事業

【森林整備室課】

１ 実施主体

森林所有者、森林組合等

２ 実施事業の概要

（１）現状と課題

木材価格の長期的低迷や森林所有者の高齢化等により、皆伐後の再造林が実施されない箇所が発生している。再造林が実施されないと、災害の発生など森林の公益的機能が低下や将来の森林資源確保と木材の安定供給に支障をきたすことが懸念される。

（２）目的

林業適地における低コスト再造林を支援することにより、森林整備の育林コストを低減し、持続的な林業経営を推進する。また、早期に森林の公益的機能の回復を図る。

（３）事業内容

伐採後の林業適地において、疎植造林(植栽本数 1,000 ～ 2,000 本/ha(法令による制限は遵守))を実施した森林所有者等に対し、森林環境税を活用し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

３ 成果

事業を開始した平成 22 年度以降、再造林面積は増加しており、再造林放棄地が減少している。また、平成 21 年度は県下全体でスギ・ヒノキの疎植造林の割合が 44 %であったが、平成 28 年度は 77 %を占める割合となり、再造林のコスト縮減が図られた。

〈再造林促進事業の計画及び計画〉

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
計画	400 ha	400 ha	400 ha	400 ha	600 ha	650 ha	650 ha	650 ha
実績	257 ha	342 ha	301 ha	484 ha	466 ha	437 ha	663 ha	－ ha

４ 今後の課題と取組

各市町村及び各森林組合を通じて、低コスト再造林施業の普及啓発をさらに進め、再造林放棄地の解消を図る。

5 実施状況写真



Ⅱ－２ 県産竹材利用促進事業

【工業振興課】

１ 実施主体

大分県

２ 実施事業の概要

（１）現状と課題

本県は全国一のマダケ竹材生産地で、製竹、竹工芸、竹製品卸販売等の産業が集積している。また、「別府竹細工」は大分県で唯一、経済産業大臣が指定する「伝統的工芸品」となっている。

一方、生活様式や経済動向の変化により、竹材や竹工芸品の需要が落ち込み、竹材生産量も減少した結果、竹林荒廃が懸念されている。

（２）目的

県産竹材の需要開拓に繋げるため、若手竹工芸士を対象とした人材育成や創業支援および全国コンペティションの開催により、新たな竹材利用を促進する。

（３）事業内容

①貸し工房「未来竹房 B・スクエア」による竹材利用促進

若手竹工芸士を対象に、１年間製作活動に専念できる貸し工房（作業場）を提供し、県内への定着や竹工芸士としての自立を支援する中で、竹材伐採研修や展示会を行うことで、竹材の新たな利用を探り、県産竹材の需要開拓に繋げる。

②竹文化アートコンペティションの開催

竹を主素材とした建築・インテリア作品のデザイン画を全国公募し、実際に製作したものを県内の観光施設等に展示し本県の竹文化をPRすることで、県産竹材の需要拡大と利用促進を目指す。

３ 成果

①貸し工房「未来竹房 B・スクエア」による竹材利用促進

- ・ 竹林実習－講師：櫛上竹材 上野山貞男 氏 受講者：入居生 3 名、訓練生 10 名

実習日時：平成 28 年 10 月 20 日 場所：国東市向陽台地区の竹林

- ・ 貸し工房 入居生、卒業生による利用提案「竹七人展」

展示期間：平成 29 年 3 月 18 日～20 日 場所：富士屋 gallery 一也百

展示作品数：計 40 作品 120 点 来場者：約 350 人

②竹文化アートコンペティションを開催

- ・ テーマ「竹を感じる”こちよい”モノ」デザイン画募集一応募数：129 点

展示審査：平成 28 年 8 月 18 日～24 日 場所：(株)大分銀行 宗麟館 2 階

- ・ 受賞作品の製作展示－製作展示数：8 作品

展示期間：平成 29 年 2 月 27 日～3 月 5 日 場所：県立美術館 1 階 アトリウム

- ・ 観光施設等でのPR展示 場所：別府市内の 5 施設および大分空港（国東市）

4 今後の課題と取組

竹材利用に関わる人材育成や意識啓発のほか、県産竹材の需要開拓に繋げるための商品開発、販売促進が課題となっている。

今後、新たな竹材利用の促進に向けてこれまでの取り組みを継続するとともに、新たに消費者目線での竹製品の商品開発に積極的に取り組むことで、竹材の有用性の理解や竹工芸等への関心を高め、竹材・竹製品の消費拡大を図る。また、竹材利用事業者の技術、技能の継承と竹工芸用竹材の安定供給に取り組む必要がある。

5 実施状況写真

①貸し工房「未来竹房 B・スクエア」による竹材利用促進



竹林実習（竹材伐採研修）



貸し工房 入居生、卒業生による利用提案「竹七人展」

②竹文化アートコンペティションの開催



デザイン画展示
(宗麟館 2 階)



受賞作品の製作展示
(県立美術館 1 階 アトリウム)



県内の観光施設等での P R 展示（別府市内の 5 施設および大分空港）

Ⅱ－３ 竹産業等振興対策事業(竹林楽校)

【林産振興室】

１ 実施主体

大分県（林産振興室）

２ 実施事業の概要

（１）現状と課題

本県は豊富な竹資源を有しているが、代替素材の開発等により竹材利用が減少しており、荒廃竹林が増加している。

（２）目的

たけのこ生産や竹材管理に関する知識や技術等を学ぶ竹林楽校を開催し、竹林を持続的に整備する竹林管理者を確保・育成する。

（３）事業内容

①たけのこ生産竹林楽校…研修生２８名。研修３回実施。内容は基礎知識、伐竹・収穫実習、先進地視察等。

②竹林楽校通型研修…受入生産者１名に対し研修生３名。研修３回実施。内容は基礎知識、伐竹・油抜き処理実習、管理竹林での講義等。

３ 成果

①たけのこ生産竹林楽校

- ・県庁ＨＰや市報を利用した公募により、研修生は昨年を上回る２８人となった。
- ・過去から今年度までの研修生の中で、「荒廃竹林整備・利活用推進事業」を利用する事例が増えている。

②竹林楽校通型研修

- ・講師の生産現場での研修の他に、研修生の管理竹林での講義も行ったので、より実践的な指導を行うことができた。

４ 今後の課題と取組

需要の高い小径竹材生産は伐竹作業員や竹材業者の高齢化、後継者不足が深刻な課題である。また、県の伝統工芸品である竹細工は、竹工芸家自ら材料確保のために竹林管理、伐竹を行う事例が増えている。そのため、竹工芸家も竹林管理者の担い手として、Ｈ２９年度は、県竹工芸訓練センターの入校生や貸し工房入居者を対象とした「竹林楽校特別研修」を実施する。

５ 実施状況写真



たけのこ生産竹林楽校基礎研修

竹林楽校通型研修

Ⅱ－４ CLT利活用等促進事業 (大分県木造マイスター育成事業)

【林産振興室】

1 実施主体 大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

改正建築基準法の施行に伴い、3,000 ㎡を超える木造建築物などが耐火措置等を講じることによって建築しやすくなった。しかし、工法を選定するうえで大部分を担っている建築士等には木造設計の経験が少ない方も多く、非住宅建築物では非木造が大部分を占めている状況にある。

(2) 目的

非住宅建築物の木造化を推進する建築士等を育成し、地域材の活用による健全な森林の維持増進と、林業・木材産業の活性化を図る。

(3) 事業内容

県内の若手建築士に対し、林業や製材加工、木造建築に精通した講師による年6回の研修会を開催。

3 成果

以下の内容を研修会で実施し、木造化を推進する建築士等の人材を育成した。全ての研修内容を修了した16名に対し「大分県木造マイスター」として修了証を交付。

講義内容及び日程(平成28年度実績)

内容	開催予定日	場所	講義内容	講師等
林業全般の専門知識	1回目 7月29日(金)	農林水産研究指導センター 林業研究部(日田市)	現地研修 (林業分野の生産から加工までの流れ)	日田市森林組合 株式会社日田十条 代表取締役 瀬戸享一郎 大分県林業研究部
法令関係	2回目 8月30日(火)	大分県庁新館(大分市)	法令関係について(公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律、改正建築基準法) 近年の木造建築、木造に関わる建築構造設計の特徴	大分県林産振興室 大分県建築住宅課 株式会社アルセッド建築研究所 所長 三井所 清典
大型木造建築物の設計・施工	3回目 9月5日(月)	大分県庁新館(大分市)	断熱性能・省エネルギー(講義) 意匠設計(講義)	岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 辻 充孝 芝浦工業大学 工学部 特任助教 青島 啓太
	4回目 10月21日(金)	産業科学技術センター(大分市)	構造設計(講義) 防火設計(講義)	山辺構造設計事務所 所長 山辺 豊彦 桜設計集団一級建築士事務所 所長 安井 昇
	5回目 11月16日(水)	産業科学技術センター(大分市)	構造設計(講義、実習) 施工現場研修	株式会社 川崎構造設計 代表取締役 川崎 薫
	6回目 12月14日(水)	産業科学技術センター(大分市)	構造設計(実習、提案) 修了証書交付	ミウラクワパートナーシップ有限会社 代表取締役 三浦 逸朗

4 今後の課題と取組

研修の修了のみに留まらず、木造施設の設計提案競技会など実務を着実に繋げていく。

5 実施状況写真



第1回目研修(林業研究部)



木造マイスター修了者

Ⅱ－５ おおいた型次世代木造住宅創造事業 (地域材パネル工法普及研修事業)

【林産振興室】

1 実施主体

大分県（大分物語協議会）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

人口の減少に伴い住宅着工需要の縮小が予測されると共に、大工の高齢化・減少が進む中、ツーバイフォー住宅のような簡易な住宅工法の需要が高まっている。

(2) 目的

県内の木材生産から住宅産業までの関連業界が垂直連携し、在来軸組工法とツーバイフォー工法のメリットを併せ持つ地域材パネル工法の製造・普及に取り組むことで、地域材の需要拡大を目指す。

(3) 事業内容

工務店や施主等に向けた地域材パネル住宅の普及啓発活動

3 成果

地域材パネル住宅の上棟の様子や完成後の見学会、また工法の解説を目的としたセミナーを開催し、地域材パネル住宅に関する理解と関心を高めることができた。

(開催回数) 見学会 2 回、セミナー 2 回

(参加者数) 見学会 180 名、セミナー 50 名

4 今後の課題と取組

引き続き普及啓発に取り組むとともに、セミナー内容をさらに拡充させることで、地域材パネル住宅建設実績の増加につなげていく。

5 実施状況写真



上棟見学会の様子



普及啓発セミナーの様子

Ⅱ－７ 林業就業準備支援事業

【林務管理課】

1 実施主体

公益財団法人 森林ネットおおいた

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県では林業就業者の高齢化等により、林業担い手の不足が深刻となっており、新たな林業担い手の確保・育成が課題。

(2) 目的

森林・林業・木材に関する体系的な知識・技術を習得し、現場で中心的な役割を果たすとともに、将来的に林業経営をも担いうる人材を育成する。

(3) 事業内容

公益財団法人森林ネットおおいたが実施する１年間の研修事業「おおいた林業アカデミー」に必要な経費（備品等）に対して支援を行う。

3 成果

(1) 新規就業者の確保

平成２８年度は１０名の研修生が「おおいた林業アカデミー」に参加し、１０名全員が卒業。森林組合や林業事業体に就職し、今後本県林業の中心的担い手としての活躍が期待される。

4 今後の課題と取組

現在、林業就業者の高齢化が進み、平成２７年国勢調査によると、本県の林業就業者数は５年前に比べ１２３人減少している。このため、「おおいた林業アカデミー」が継続できるよう支援を行い、林業担い手の確保・育成に努める。

5 実施状況写真



H28.4 開講式



H28.5 林業入門
(森林づくり)



H28.5 森林施業(間伐)

Ⅲ－１ 森林づくりボランティア活動促進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進しており、森林ボランティア参加者数は年々増加している。

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いのが現状である。

(2) 目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

(3) 事業内容

①森林づくりボランティア支援センター事業

(ア) 大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

委託先：NPO法人グリーンインストラクターおおいた	
事業内容	1) ボランティア情報の収集・発信 ・HPによる森林ボランティア情報発信 ・「森林づくりボランティア通信」の発行（毎月1,000部発行）
	2) 森林ボランティア団体（新規7団体）、個人（新規133名）の登録 3) ボランティア通い帳の発行（182冊） 4) 森林ボランティア指導者のための安全講習会の開催（18名参加） 5) 森林づくりに関する相談、情報提供 6) 森林ボランティア団体協議会の活動支援（情報交換会、学習会開催） 7) センター施設を活用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援 ・利用団体：11団体 ・利用者数：695人

ホームページの運営



「森林ボランティア通信」



「ボランティア通い帳」



「安全講習会」



センター施設を活用したボランティア活動、講演会など



(イ) 緑と森の総合実践講座

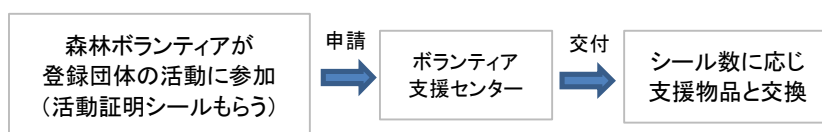
森林ボランティア団体の知識や技術の向上を図るため、森林ボランティア団体等を対象とした研修会を開催した。

	参加者数	内 容
第1回	9名	里山の整備
第2回	10名	樹木の管理



②森林づくりボランティア活動支援事業

森林ボランティア活動を支援するため、森林ボランティア登録者に対し、森林づくり活動実績に応じてタオル・鎌・鋸などの支援物品66件を交付した。



③森林づくりボランティア技術向上事業

森林ボランティアの知識や技術の向上ため、各種研修会を開催し、森林ボランティアの養成を行った。

	開催回数	参加者数	内 容
初級講座	1日×2回	17人	森林・林業の基礎知識 危険な野生生物 応急手当、自然観察 植樹実習 など
中級講座	2日×1回	10人	森林づくりの方法 多様な森の観察 森林の手入れ 道具の使い方 など
上級講座	刈払機 1日×1回	15人	刈払機の基礎知識 実習
	チェーンソー 2日×1回	16人	チェーンソーの基礎知識 実習

<初級講座>



<上級講座>



刈払機研修

<中級講座>



チェーンソー研修

④企業参画の森林づくり推進事業

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。２８年度は、４社が協定を行った。

＜平成２８年度 協定＞

協定：４社 ・ 楽天株式会社 ・ (公財)イオン環境財団
 ・ 日本フォレスト(株) ・ 日田木質資源有効利用協議会

⑤森林づくり提案事業

県民からの提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。

実施団体：４４団体

※詳細は次頁「事業一覧表」を参照

参加者：８，３９４人

伐竹作業（大分市）

大越地区棚田を守る会（佐伯市）



３ 成果

- ・ 森林ボランティア団体等を対象とした新規講座等を開催し、森林づくりの知識や技術の向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では４４団体を対象に支援を行った。
- ・ 森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ１３，２０５人が森林ボランティア活動に参加した。

年度	登録団体	登録個人(人)	参加者数(人)	目標参加者数(人)	達成率(%)
H18	31	583	9,361	8,500	110%
H19	34	1,000	9,511	8,700	109%
H20	41	1,233	9,734	8,900	109%
H21	46	1,318	12,567	9,200	137%
H22	51	1,912	12,608	9,500	133%
H23	53	2,056	12,497	10,200	123%
H24	60	2,213	12,612	10,900	116%
H25	62	2,329	12,832	11,600	111%
H26	63	2,444	12,902	12,300	105%
H27	89	2,612	13,083	13,000	101%
H28	96	2,745	13,205	13,100	102%

４ 今後の課題と取組

森林ボランティア参加者数については、目標は達成しているものの、近年高止まり傾向にあるため、大学生など若い世代の森林ボランティアの育成の推進する。また、森林ボランティア団体協議会と連携し、各種研修会を開催する等、森林ボランティア団体への活動支援を行う。

平成28年度 森林づくり提案事業一覧表

(単位:千円、人)

NO	流域名	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数
1	大分北部	両子の森プロジェクト	国東市	ボランティアを募り、4年前の植樹地(常緑樹、落葉広葉樹)で下刈りやシカネット調整、自然学習会等を実施し、森について学びながら、地域活性化を図った。	194	88
2		有限会社 福田林業	杵築市	森林環境教育活動(ネイチャーゲーム、植樹体験等)を通じて、地域住民や地元小学生・保育園児等に、山林の役割について理解を深めて関心を持ってもらう活動を行った。	460	550
3		城下町地区まちづくり協議会	杵築市	城下町地区の荒廃竹林において、地域住民等と協働し、伐竹作業、チップ化を実施することで、景観の美化と風情の創出を行った。	460	97
4		くにさき半島七郷ネイチャー	杵築市	地域住民や学生等に森林が持つ役割を教え、触れてもらい緑豊かな里山の保全を一緒におこなった。	460	140
5		三郷小学校みどりの少年団	中津市	森林環境体験学習や干潟体験学習を通じ、子ども達に山・川・海のつながりと森林の働きの重要性を理解させ、緑を愛する心を育成する。	184	82
6		宇佐市の森と海の共生を推進する会	宇佐市	子供達を対象に、植樹・椎茸駒打ち体験等を行い、森林の効用や河川や河川の役割等についての講習会、森・川・海の恵みの試食会等を実施。	399	129
7		中津・桜ともみじの会実行委員会	中津市	中津市を日本有数の桜ともみじの名所として創造するため、山国川流域に落葉広葉樹を植栽する。	460	43
8		「耶馬の森林」育成協議会	中津市	「耶馬の森林」植樹の集いを開催し、水を育む森林を守る大切さについて、耶馬溪ダム上下流域住民の相互理解と連携を深めるとともに、運命共同体意識を高める。	500	900
9		大分の木育を考える会	宇佐市	子どもたちに森林の働きの重要性を理解させ、ものづくりをすることで木材を大切にすることを育成する。	460	188
10		千部もみじ村	豊後高田市	地域の小学生を対象に、椎茸の駒うち体験や植樹活動を促すことによりこころ豊かな児童の育成の一役を担う。	156	239
11		下毛の里自伐型林業研究会	中津市	当該地区の管理されていない里山林に広葉樹を植栽し、地元の小中学生が気軽に入ることが出来る山林に整備し、山林の重要性を勉強して貰う。	258	30
12	大分中部	青江ダム森林公園づくり実行委員会	津久見市	青江ダム周辺の森林整備(つる切り、雑木伐採、植樹)と小学生を対象とした自然体験学習を実施。	385	177
13		うーたの会	大分市	都市の中に位置する里山林の整備を継続して実施。また、子供自然体験活動の拡充を図るため、森林・自然観察、体験、自然素材を使用したものづくり等の豊富なメニューを実施。	489	793
14		河原内自然環境保全くらぶ	大分市	学校や保育所と連携し、子供達に豊かな森林体験が実施できるよう森林づくり・環境教室を実施する。	251	278
15		つくみ環境美化グループ	津久見市	津久見市中心部の宮山公園などで広葉樹植栽を行い、森林公園として整備する。また、市内小学生を対象とした森の教室や椎茸駒打ち体験等を実施し、森林づくりの意識醸成を図る。	112	308
16		NPO法人 さがのせき・彩彩カフェ	大分市	地域住民との協働による湊川上流域の里山保全(竹林伐採、クヌギの植林)、森林環境教育活動を実施する。	0	0
17		特定非営利活動法人 いきいき安心おおい	由布市	地域と放置山竹林を整備を実施し森林整備の意識の醸成を図る。また、伐採した竹材の利活用として竹チップの土壌改良材や竹パウダーの固形燃料等の有効性を検討する	495	96
18		四浦を考える会	津久見市	河津桜の植栽や下刈を実施し、豊かな森を育て海を再生する。開花時期が早く、開花期間が長い河津桜の植栽により、“津久見市の春は四浦半島から”と言われるよう取り組む。	495	138
19		特定非営利活動法人 碧い海の会	大分市	竹中地区の「憩いの広場」を中心に森林づくり活動に取り組む。また、子どもたちへ竹工作教室や自然観察教室等の環境学習を実施。	495	830
20		豊後ふるさと再生塾 「昭和の里“かぐや姫”」	大分市	荒廃竹林・雑木林の整備、未利用資源の有効活用(炭化)を通じ、「ふるさとの景観を昭和初期の姿に」復元させ、自然を体験できる交流の場として整備する。	245	50
21		平石コミュニティ事業部会	由布市	平石地区周辺の里山林を保全するため、市民ボランティア、大学生と協働で下刈り作業、伐竹、除間伐等の森林整備を実施。	222	26
22		永慶寺山登83戸組合	由布市	「山桜日本一の里山づくり」を目指し、ボランティア等による植栽地の下刈り、登山道の整備やヤマザクラの植栽等を実施。	190	54

平成28年度 森林づくり提案事業一覧表

(単位:千円、人)

NO	流域名	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数
23	大分中部	大分エコクラブ	由布市	大分市上野の森、由布市小狭間地区において、子どもたちを対象に森林環境教育を実施し、豊後大野市大飼の山間部で里山保全活動を実施	281	85
24		一般社団法人 大分県造園建設業協会	大分市	竹林再生事業跡地で地元住民・日本文理大学生ボランティア等と里山保全活動を実施する。また、小学生を対象に森林環境学習会を開催する。	424	199
25		三角台を守る会	臼杵市	地域住民と協働して三角台の森林・景観の整備や登山道の整備を実施し地区住民の森林意識の醸成を図る。	317	120
26		おおいた上野の森の会	大分市	上野ヶ丘墓地公園の森の整備を継続して実施。都市近郊の森林整備のあり方について検討するためシンポジウムや勉強会を行い、より広く一般市民への森林づくりへの意識を醸成する。	233	280
27		津久見地区山づくり協議会	津久見市	津久見地区周辺の荒廃した里山林の整備を地域住民と協働で行い、景観改善による地域活性化を図る。	458	85
28		NPO法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	森林体験教室(竹箸づくり、自然観察、花炭づくり等)を通じて、子ども達に、森林の重要性を認識してもらう。	145	71
29		あかい屋根の郷	豊後大野市	小学生を対象に椎茸栽培や駒打ち体験、炭焼き体験等を行い、地域住民と美しい里山づくりを進め、一般社会に対してその気運を高める活動を行う。	421	190
30		神角寺溪谷緑化推進会	豊後大野市	神角寺溪谷上流部の杉伐採後の荒地にモミジ・ヤマボウシの植栽を行う。	495	112
31	大分西部	一般財団法人 中津江村地球財団	日田市	筑後川上流の森づくりを下流域住民と共に行い、水源地域の森林の大切さを周知し、森林整備に対する意識の高揚を図る。	166	100
32		日田市	日田市	森づくりをとおして森林の有する公益的機能を守り育てる気運を高めるとともに、上下流域住民の交流・親睦を深める。	95	301
33		ふるさとキャラバン隊	玖珠町	H3年台風19号被害を機に、森林の重要性について都市部や筑後川下流域関係者に理解を求め、下刈作業など復興の協力をお願いすると共に都市農山村の交流を図る。	312	86
34		千年あかり実行委員会	日田市	管理不足の竹林の伐採・片付けを支援し健全な里山を保全する。また、伐採した竹で灯籠を製作し、日田市千年あかりで有効利用する。	455	273
35		NPO法人 生活環境テラス	日田市	子供達を対象とした森林環境学習や森林体験(魔法の杖作り)、大人を対象とした森林体験(植樹と山歩き)を実施。	300	35
36		豊後自然塾	日田市	自然体験の少ない子供達を対象に、森林体験活動や森林環境保全学習を実施する。	455	254
37		奥江の森を元気にする会 森林部会	由布市	由布市湯布院の奥江地区において、除伐・植樹・森林教室等の活動を行い、自然と人間が共生し豊かになっていく方法を模索する。	366	90
38		柿ノ谷森林づくり実行委員会	日田市	筑後川中津江村最上流水源涵養林を環境学習の場として開放し、下流域までの多くの小学生に水を守ることは森を守ることだと体感を通して認識してもらう。	455	62
39		NPO法人 初島森林植物園ネットワーク	日田市	ダムサイトに、モデル的な水源林・景観林を造成する。生物多様性の高い森づくりを行う。子供の森林教育・自然教育の場として整備する。下流域と交流しながら協働の森づくりを続ける。	415	65
40		九重ふるさと自然学校	九重町	里山の豊かな自然環境を創出するため、森林づくり(荒れ地の草刈り、スギの伐採、外来種植物の抜根作業、広葉樹(クヌギ等)の植栽)を行い、希少チョウ類などの生物多様性の保全並びに環境学習の場としての活用を図る。	200	44
41	大分南部	佐伯広域森林組合	佐伯市	公募や自主参加による森林ボランティア活動(コンテナ苗植栽)を実施。	385	217
42		大越地区棚田を守る協議会	佐伯市	大越地区の里山林の整備(荒廃林整備・広葉樹植栽)及び子ども対象の森林教室を実施。	485	61
43		長松山森林整備推進協議会	佐伯市	荒廃が進んだ長松山の森林整備を実施し、森林環境の保全を図り、地域住民の憩いの場を創出する。	485	107
44		NPO法人 やまのりの会	佐伯市	地区住民や子供達を対象に森林環境学習、森林体験(伐竹、下刈、椎茸駒打ち)等を実施。	485	321
				合計(44団体)	15,203	8,394

Ⅲ－２－① 森林環境教育推進事業 (森の先生派遣事業)

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」に委託

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

子どもたちが身近に森林や自然に触れる機会が減少している。

(2) 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

(3) 事業内容

保育所や幼稚園、小・中・高校、大学、放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

3 成果

森林体験活動等を通じ、子どもたちの森林環境に対する理解と関心が高まった。

＜平成28年度実績＞

(派遣回数) 92回

(派遣人数) 450人

(体験人数) 子ども 4,126人、大人 976人

＜実績の推移＞

	H26	H27	H28
派遣回数	96回	98回	92回
派遣人数	380人	431人	450人
体験児童数	3,784人	4,164人	4,126人

4 今後の課題と取組

森林環境教育や自然体験に対する関心が高まり、学校等からの申込みが年々増えているため、派遣回数を増やし、森林体験活動の機会の増加を目指す。

5 実施状況写真



Ⅲ－２－② 森林環境教育推進事業 (名樹とのふれあい事業)

【森との共生推進室】

1 実施主体

市町村

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県指定の特別保護樹木63本のうち、経年変化や気象害等により、樹勢の悪化や倒伏の恐れが生じている個体がある。

(2) 目的

県指定の特別保護樹木のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

(3) 事業内容

- ・不健全な樹木の保全・・・整枝、剪定、古枝除去など
- ・踏圧等による被害予防・・・進入防止柵設置など

3 成果

4本の特別保護樹木（大分市カゴノキ、別府市イチョウ、国東市ケヤキ、イチイガシ）の治療を実施した。剪定、生育環境を改善する等の治療ができたため、今後樹勢の回復が期待できる。

4 今後の課題と取組

特別保護樹木は樹齢が100年以上と古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図りたい。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

5 実施状況写真

クスノキ（中津市）



作業前



作業後（剪定・除伐・土壌改良）

Ⅲ－２－③ 森林環境教育推進事業 (次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業)

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

(2) 目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図るための研修会を実施する。

(3) 事業内容

世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施する。

(参加者) みどりの少年団 29 名、ボーイスカウト 3 名、ガールスカウト 3 名
(計 35 名)

(行程等) 平成 28 年 8 月 17 日～19 日 (2 泊 3 日)

1 日目：志戸子ガジュマル園、屋久島環境文化村センター、学習会

2 日目：ヤクスギランド、安房川でカヌー体験、感想文書き

3 日目：かごしま環境未来館

3 成果

①世界的、国内的に有数の森林環境保全地域を体験することにより、広い視点で森林環境に関する理解や知識が深まったほか、郷土のみどりを守る意識が高まった。

②研修会、発表会、報告会等を通じ、より一層「次代の森林づくり活動リーダー」としての資質向上が図られ、今後の活躍が期待できる。

4 今後の課題と取組

意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、研修内容をさらに拡充させ、屋久島での研修会を実施していきたい。

5 実施状況写真



屋久島環境文化村センター



ガジュマル園

Ⅲ－２－④木育活動促進事業

事業費 7 2 8 千円(うち森林環境税 7 2 8 千円)

【林産振興室】

1 実施主体 大分県（NPO法人 アシスト・パル・オオイタ）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

日常生活の中で木に触れる機会が減少し、木を使う意義についての認識が薄れてきた現在において、木に触れ、人と木や森との関わりを考えることができる豊かな心を育むための木育活動の普及が求められている。木育活動の普及には、木の良さを伝えることができる人材の育成が課題となっている。

(2) 目的

木育活動の普及ができる人材を育成し、木育活動の普及を図る。

(3) 事業内容

- ① 木育活動ができる人材育成を目的とした木育講座の開催
- ② ①の講座修了者によるワークやイベント等の木育実践活動の実施

3 成果

木育講座では、大分県の森林・林業についてや木育の意義等について、実践活動では、積木を使ったワークや木育イベントを開催し、木育活動の実践方法について体験しながら学ぶ機会を設けることができた。木育講座及び実践活動の参加者 1 5 名を「木育インストラクター」として認定した。

4 今後の課題と取組

今後は、木育インストラクターに活動の場を提供し、自主的な活動を促す体制づくりを行っていく。

5 実施状況写真



積木を使ったワーク



木育イベントでの木工教室

Ⅲ－3森林環境学習促進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県立社会教育総合センター 九重青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県は優れた自然景観や多様な野生動植物など豊かな自然環境に恵まれているが、その豊かな自然環境を守っていかこうとする意識は必ずしも高いとは言えない。また、子どもだけでなく、その保護者の自然体験活動や環境教育の経験が不足している。

(2) 目的

森林環境学習指導者を活用して、環境に関する学習機会の提供や指導者を派遣することにより、自然体験活動や環境学習・活動の促進を図る。

(3) 事業内容

- ①「ここのえ森の楽校」の実施
- ②「ここのえ緑の子ども園」の実施
- ③「森林（もり）の環境学習サポート隊」の派遣
- ④「森林環境学習指導者スキルアップセミナー」の実施
- ⑤「森林環境学習指導者」活用調査研究

3 成果

- ① ここのえ森の楽校について
 - ・参加者の自然に対する興味・関心や愛着の高まりと「生きる力」の向上が見られた。
 - (I K R 評定※)でプラス変容が見られた参加者の割合 86.7 %)
 - ※ I K R 評定：独立行政法人国立青少年教育振興機構が開発した活動の成果を測定するアンケート調査
- ② ここのえ緑の子ども園について
 - ・森林環境学習指導者の組織化が図られ、効果的な活動を展開できたことにより、参加者の満足度は 90 %以上を上回ることができた。
- ③ 「森林（もり）の環境学習サポート隊」の派遣について
 - ・参加者の自然環境に対する興味・関心や環境保全への意識の高まりにつながった。
- ④ 「森林環境学習指導者スキルアップセミナー」の実施
 - ・専門性の高い森林環境学習指導者の知識や技能を共有する構成としたことにより、他の指導者の専門性の向上につながった。
- ⑤ 「森林環境学習指導者」活用調査研究事業
 - ・登録指導者の地域での活動状況と活動に対する悩みや研修に対する要望等を把握することにより、スキルアップセミナーの研修内容に反映させることができた。

4 今後の課題と取組

森林環境学習指導者の体験的参加型森林環境学習プログラムの実践における企画・運営力を向上をさせることにより事業の更なる充実を図り、森林環境学習指導者が大分県の環境教育推進に寄与する存在であることを県内に広く広報していく必要がある。

5 実施状況写真



ここのえ森の楽校



緑の子ども園

Ⅲ－４ 未来の環境を守る人づくり事業

【うつくし作戦推進課】

1 実施主体

大分県

(委託先：おおいたうつくし推進隊、NPO法人、ボランティア活動など社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等)

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

地球温暖化問題をはじめ、様々な環境問題の解決のためには、子どもの頃からの実体験を伴う環境教育が重要である。しかし、学校現場においては、時間がなくカリキュラムに組み込むことが難しいなどの理由により、年間を通じた計画的なものの実施に至っていない。他方、青少年団体等で環境教育に取り組む団体があるが、体系的な活動を実施したくても資金面で困難との声もある。

(2) 目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため、県内の子どもたちの環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考え行動する力を育成し、おおいたうつくし作戦によるひとづくり（人材の育成）の強化を図る。

(3) 事業内容

県内の子どもたちに対する自然体験活動など実体験を伴う年間を通じた環境学習を行う取組を団体に委託し実施した。また、子ども探検団の活動発表会を開催した。

3 成果

- ・採択団体 11団体 ・参加者数 1,233人
- ・環境教育アドバイザーによる自然の大切さ等を学んだ後、生き物や植物観察など実体験することで、環境への理解が深まるとともに、子どもたちによる活動発表会では、子どもから大人に向けた啓発を行うことができた。

4 今後の課題と取組

平成28年度からは、県の公共施設をフィールドとした自然体験活動の拡充や、県環境教育アドバイザーによる支援を加えることで、団体がより効果的な取組を実施することができた。今後も引き続き、実施することとし、環境教育の推進を図る。

今年度からは、四季を通じた自然体験活動が重要であることから、事業の着手時期を早めることとした。

5 実施状況写真



わくわく実験室ふぁみらぼ
「森の自然体験活動」



ガールスカウト大分県第25団
「こども探検団発表会」

Ⅲ－５ 観光行政事務指導費

【観光・地域振興課】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

大分県の製材品出荷量は454千m³と全国5位の規模を誇っているが、県内及び首都圏において大分県産材の認知度は進んでいない状況にある。

一方、観光に目を向けると、平成26年度より「おんせん県おおいた」のキャッチフレーズを用い、首都圏等で大分の魅力を積極的にPRしている。おんせん県とともに、効果的に大分県産材のPRを行い、更なる県産材の認知度向上に努める必要がある。

(2) 目的

大分県産材を活用したツールを用い、森林資源豊かな大分県と県産材の良さをPRする。

(3) 事業内容

大分県産材を見て、触れて、木の良さを体感できるPRグッズの作成
(県産材風呂桶250個)

3 成果

「おんせん県おおいた」とともに、効果的に大分県産材のPRができ、県産材の認知度向上に繋がった。

4 今後の課題と取組

おんせん県おおいたのPRイベント等において、風呂桶を活用し、更なる県産材のPRに取り組む。

5 実施状況写真



Ⅲ－６ みんなで支える森林づくり推進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念としているが、森林環境税の認知度はまだ低く、税の理念や使途が県民に浸透しているとはいえない状況である。

(2) 目的

森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

(3) 事業内容

①第16回豊かな国の森づくり大会の開催

県民総参加の森林づくりを推進するために、豊かな国の森づくり大会を開催した。

- ・開催日時：11月5日（土） 10：30～12：00
- ・開催場所：耶馬溪ダム湖畔（中津市耶馬溪町）
- ・大会テーマ：「未来へつなごう 水と緑を育む耶馬の森林」
- ・主催：大分県、中津市、（公財）森林ネットおおいた
- 共催：「耶馬の森林」育成協議会
- ・大会規模：参加者数860人（みどりの少年団、大学生、森林ボランティアほか）
- ・森林づくり活動：植樹 1,840本（ヤマザクラ、ヤマツツジ）

自由参加活動 シカネット設置 L=894m

式典会場



植樹



緑の募金



シカネット設置



②新たな森林づくり推進体制整備事業

・「森林づくり委員会」の開催

森林環境税を活用した事業の適正な運営のため、森林づくり委員会を開催した。

回数	開催日	協議事項
第1回	6月29日	- 平成27年度森林環境税活用事業の実績 - 平成28年度森林環境税活用事業の予算概要 - 新たな育林技術等研究開発事業の審査
第2回	11月5日	- 森林環境税の事業成果の検証 - 森林づくりの課題と今後の方向性について - 第2期森林環境税報告書の骨格について
第3回	2月14日	現地視察：森林ボランティア団体の活動の現地 - おおいた上野の森の会（大分市） - 特定非営利活動法人碧い海の会（大分市）

・「森林づくり流域協議会」の開催

地域における森林環境税事業の適正な運営のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPO等が行う森林づくり提案事業の審査や事業成果の検証等を行った。

流域協議会	内 容	開催回数
大分中部・大分南部 大分西部・大分北部 （4流域）	「森林づくり提案事業」（公募事業）の審査、実績の検証 - 森林環境税事業地の視察、意見交換 等	計8回

・「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」の開催

外部委員から提言や助言を受けビジョンの実現を推進するために設置した「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」では、生産林・環境林の区分や低コスト育林（造林）、竹林の活用・整備などのビジョンのテーマに沿った取り組み状況並びに今後の計画について検討し、ビジョンの効果的な実施を図った。

内 容	開催回数
- 生産林、環境林の区分や低コスト育林（造林）等の各テーマの取組状況の検討等 - 森林づくりビジョンの推進方法の検討等	1回

3 成果

（1）豊かな国の森づくり大会の開催

多くの県民に森づくり活動を体験してもらうことで、森の役割や、森林づくりの重要性について理解を深めることができた。

（2）新たな森林づくり推進体制整備事業

第三者機関である「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」で、森林環境税活用事業の成果検証や、次年度事業の内容について意見を聴取し、県民の意見を取り入れることで、森林環境税を適正に運用することができた。

4 今後の課題と取組

多くの県民に森林環境税や森林づくりに対する興味を持ってもらうため、森づくり大会の内容などを工夫し、引き続き県民総参加の森林づくりを推進する。また、森林づくり委員会等を利用し、県民の意見を取り入れ、森林環境税の適正な運営管理を行う。次世代の大分森林づくりビジョン推進会議では、引き続き生産林候補地の検証等を行う。

(番号1) 新たな育林技術等研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	早生樹バイオマス+αの森林づくりパイロット事業		
事業主体名	おおいた早生樹研究会		
責任者(職、氏名)	(会長)(株)田島山業 代表 田島 信太郎		
研究期間	平成27年度～平成29年度 3ヶ年		
研究開発費	1, 003, 576円 (森林環境税 1, 000, 000円、自己資金等 3, 576円)		
研究目的	国内外の早生樹の造林・利用に関する情報収集と調査研究、県民への情報提供と普及啓発を行うことにより、早生樹を活用した次世代の大分森林づくりに先駆的に取り組む。		
研究内容	1. 大分県における早生樹の適合性を検証するため試験地を造成し、密度試験、活着状況や成長量調査を行う。 2. 上記試験地の維持管理に必要な施業(下刈り等)を行う。 3. 造成シミュレーションを行いコストの優位性を検証するとともに、現地研修会を開催し普及を図る。 4. 早生樹の取組について、情報収集を行う。		
研究成果	1. 国産早生樹の適合性試験 ・植栽箇所: 日田市釜ヶ瀬、前津江、中津江 ・植栽樹種: 7種 1, 150本 ホオノキ、シバクリ、エドヒガン ミズメザクラ、イチヨウ、ケンポナシ ・目 的 多種共存の森を目指し国産早生樹の活着調査 2. ツリーシェルターを活用した保温効果の検証 ・検証箇所: 日田市中津江、中津市耶馬溪町(H27植栽) ・対象樹種: センダン、ホオノキ、シバクリ、エドヒガン ミズメザクラ ・目 的 保温効果による成長促進ならびにシカ被害対策検証 一定の効果が確認されたので日田市中津江でも実施 3. 早生広葉樹の市場動向調査 ・調査箇所: 福岡県大川市(大川木材市場、高田製材所) ・調査項目: 早生広葉樹の取引価格と市場動向 ・目 的: 損益分岐の情報収集 ・市場動向 資源の枯渇にともなう価格高騰で国産広葉樹に注目 センダンが注目(ケヤキの代替)他樹種も可能性有り	 日田市中津江植栽状況  中津市耶馬溪町調査状況  福岡県大川市調査状況	
普及性	保育経費が安く、資本回収が早い早生樹を活用した多種共存の森林づくりを推進することで、森林の多面的機能、森林所有者の持続的経営への支援、経営意欲の向上等が期待できる。		
課題	1. 更新・保育の施業体系の確立 2. 国産早生樹の認知度を上げ、利用・販路の拡大		

(番号2) 新たな育林技術等研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	簡易型沢わさび圃場造成研究実証事業
事業主体名 責任者(職、氏名)	出野わさび研究会、つえエーピー(商品開発等 連携企業) 代表 佐藤学
研究期間	平成27年度～平成29年度 3ヶ年
研究開発費	250,050円(森林環境税 175,000円 自己資金等 75,050円)
研究目的	日田地域はわさび栽培が生産量で九州1位であるが、林間やハウスを利用した加工原料用の葉茎栽培が中心であり、商品価値の高い根わさびの生産はほとんどなされていない。それは①沢わさびの栽培が難しいことに加えて、②造成単価が4万円/㎡と高いことが要因に上げられる。 そこで、生育が良好で長期間の使用に耐えられ、且つ造成単価を半額以下に抑える沢わさび圃場の造成を実証検証するとともに、日田地域の特産であるわさびの高付加価値化(根わさび導入)を図る。
研究内容	わさび生産の課題である収穫物の品質の安定化を図るため、生育が早く、根茎率の高い優良種苗の固定を行う。そのために、以下のことを実施する。 ・優良種苗専用の育苗圃場の整備 ・優良種苗の種子の収穫及び選別
研究成果	○優良種苗専用の育苗圃場の整備 純粋な優良種苗の固定のために、標高500mの杉林を間伐し、優良種苗専用の育苗圃場(約1,000㎡)を造成した。   間伐の様子 造成した圃場 ○優良種苗の種子の収穫及び選別 昨年定植したわさびの中から生育が良好な個体を選抜し、種子の収穫を行った。その後、収穫した種子を更に選別し、11月、優良種苗専用の圃場に播種を行った。3月に発芽を確認。この苗を約1年間育苗し、昨年度造成した沢わさびの圃場に定植する予定。  
普及性	優良種苗が固定し、安定的に大量に流通することで生産性の向上が見込める。
課題	3月に発芽した苗については、形状にばらつきが確認された。優良種苗の固定のためには「種子採取⇒育苗⇒定植」のサイクルを複数回行う必要があり、固定までに時間・労力・コストを要す。 種子の採取や育苗、定植にかかる効率化・低コスト化が今後の課題と考える。

Ⅲ－７ おおいたの森林づくり広報推進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県政モニターアンケート調査の結果、県民の森林環境税に対する認知度はこれまでの広報活動の成果等により、上昇傾向となっている。しかしながら、この税の目的の一つである「森林をすべての県民で守り育てる意識の醸成」という面では未だ十分とはいえない状況である。

(2) 目的

森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

(3) 事業内容

① マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告3回（森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・ Facebookページによる情報発信（豊かな国の森林づくりFacebook）

② その他の広報活動

- ・ 森林環境税パンフレットを作成し、イベント等で配布（3,500枚）
- ・ 森林環境税PR用マグネットシートを作成し、関係団体等へ配布（400枚）
- ・ 森林環境税事業の実績報告書を、市町村等へ配布、HPで公開した。
- ・ マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、森林環境税に関するPRを行った。（もりりん貸出し回数：28回）
- ・ 「農林水産祭」や「森づくり大会」において森林環境税に関するコーナーを設置し、森林環境税のPRを行った。

3 成果

新聞広告やホームページなど各種媒体を活用し、森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで、「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

4 今後の課題と取組

森林環境税の導入や使途について知らない県民もいることから、今後もマスメディアやSNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行うほか、イベント等にキャラクターを派遣し、PRを実施する。

5 実施状況写真

農林水産祭に参加



森林環境税コーナー



森林環境税パンフレット



Facebookページ



マグネットシート



Ⅲ－８ おおいたうつくし作戦推進事業

【うつくし作戦推進課】

１ 実施主体

大分県（おおいたうつくし推進隊に委託（委託先：NPO法人、学校、ボランティア団体など））

２ 実施事業の概要

（１）現状と課題

活動団体の高齢化や若い人の参加が少なく、また、豊かな自然を生かした体験を交えた効果的な啓発や子どもの頃からの環境教育が十分に実施されていない。

（２）目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来へ継承するため、県民総参加で進めてきた「ごみゼロおおいた作戦」の成果を生かし、さらにステップアップさせた地域活性化型の「おおいたうつくし作戦」を展開し、県民意識の更なる醸成と持続可能な活動基盤づくりを推進する。

（３）事業内容

- ①保健所・保健部ごとに地域連絡会の開催
- ②おおいたうつくし作戦まちづくり推進事業の実施
- ③おおいたうつくし作戦なかまづくり推進事業の実施
- ④おおいたうつくし感謝祭の開催 等

３ 成果

（１）保健所・保健部ごとに設置している地域連絡会では、環境保全団体や行政機関が情報を共有することで、環境に関する地域課題の掘り起こしや団体相互の協働の促進につながった。

（２）上記（１）の地域課題の解決を図る「おおいたうつくし作戦まちづくり推進事業」では、１０団体が受託し実施した。大分スポーツ公園周辺の耕作放棄地を活用した市民や団体参加による花公園づくりでは、球根の植え付けや水やりの管理が多くの方々が参加される取組に広がり、三世代交流の場にまで発展した取組のほか、地元の小学生による里山でヤマザクラの植樹といった森林保全の取組など、環境保全活動を通じて地域活性化を図ることができた。

（３）新たに任命された推進隊による「おおいたうつくし作戦なかまづくり推進事業」では、６団体に支援した。ホテルの生息地を守るため藪の伐採や川の清掃活動により団体活動の活発化や、高校生等の若い世代の推進隊が結成されるなど、持続可能な活動の基盤づくりを推進することができた。

（４）大分の豊かな自然環境に感謝し、環境保全の大切さを考えるきっかけとなるよう開催した環境イベント「うつくし感謝祭」では、県産材を使った体験型ワークショ

ップや写真展等を実施し、子どもから大人までを幅広い世代への普及啓発ができた。
写真展では、「う・つ・く・し」の「し」森林の部門においても多くの応募があり、
恵まれた自然を再認識し環境意識の醸成を図ることができた。

4 今後の課題と取組

地域連絡会の開催やうつくし作戦まちづくり事業の実施などにより、団体相互の協働の促進やボランティアに参加する県民の増加など、地域活性化につながる成果が得られた。今後においても、それぞれの地域の課題の解決を図る必要があることから、地域連絡会を活用しながら、各地域におけるうつくし推進隊の増加、活動の基盤づくりなどに引き続き取り組む。

また、国民文化祭や全国障害者芸術・文化祭、ラグビーワールドカップに向けて、環境の視点からおもてなしする態勢を構築するため、地域住民等と一体となって花いっぱい運動や里山保全など様々な環境保全活動を展開していく。

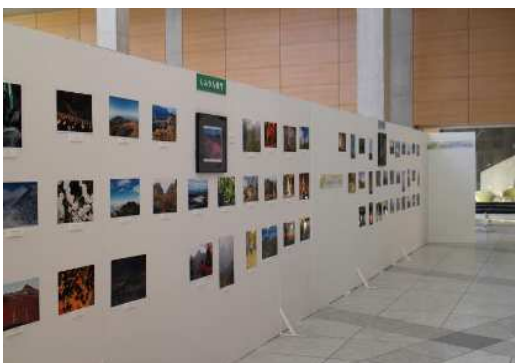
5 実施状況写真



うつくし作戦まちづくり推進事業
(里山の植樹活動)



うつくし作戦なかまづくり推進事業
(ホタル生息地の清掃活動)



「うつくし感謝祭」
『おおいたうつくし写真展』
「う・つ・く・し」各部門ごとに展示



『おおいたうつくし写真展』
「し」の「しんりん部門賞」の作品